

「南海地震に備え、自主的に行動できる児童を育成する」

平成 24 年度 高知県実践的防災教育推進事業 拠点校 安芸市立安芸第一小学校

I 学校における背景、問題意識

安芸市立安芸第一小学校は、安芸市中心部に位置し、海拔は 10.1m で海岸線より約 300m の高台に位置している。

本校は、周辺地域の津波避難場所に指定されており、安芸市・自主防災組織が管理する備蓄品も多く保管されている。また、災害発生後は医療救護所の役割も果たすようになっている。

そこで、平成 24 年度高知県実践的防災教育推進事業の指定を受け、研究主題を「南海地震に備え、自主的に行動できる児童を育成する」と定め、取組を進めることとした。

II 取組のポイント

本校の実践的防災教育の取組は、大きく分けて下記の 2 つの取組から成り立っている。

1 本校の防災教育

◆防災に関する知識を習得する「防災学習」の実施

◆主体的に行動できる児童の育成を目的とした「避難訓練」の実施

防災教育を推進するに当たっては、家庭や地域社会と日ごろから連携協力を図りながら取り組むことが重要である。

教員や保護者が災害の危険について理解し、児童の安全確保、指示や行動の仕方を身に付けるためには、地域の自然環境、災害や防災についての基礎的・基本的事項を理解する防災学習を進めるとともに、それと関連させた効果的な避難訓練をより実践的に実施継続していくことが大切であると考えた。

2 防災教育目標

防災教育全体計画を作成し、下記のとおり防災教育目標を設定した。

- ①災害が発生する要因を理解する。
- ②身近に存在する危険箇所に気づき、

災害に備えることができる

- ③災害発生時、自分の判断で自分の命を守ることができる。
- ④学習したことを家庭・地域に広げることができる。

また、6 年間の系統性を考えながら、低・中・高のブロックごとに目標を立て、教科・道徳・特別活動などの時間を使って防災教育を行うこととした。

III 取組の概要

1 「防災学習」

(1) 2 年生の「地震がきた！」の授業

この授業では、スライドやワークシートを使って、様々な場面(教室、廊下、体育館、運動場、自宅、町中(校区)、海や山などにおける避難の仕方、自分の命の守り方を学習した。



児童の感想

- 地震がどんなにこわいかわかりました。津波もすごくこわかったです。
- 地震が起きたら、倒れやすいところからはなれ、自分の身は自分で守ることが分かりました。もっと地震や津波のことを知って、自分を守りたいと思った。
- すぐにはげないといけないということが分かった。
- 防災訓練はとっても大事なことが分かりました。

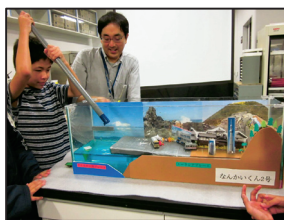
※低学年なりに、色々な気づきをしていることが分かった。

(2) 5 年生の防災学習



5 年生は安芸市役所危機管理課の方に来ていただいて「安芸市の防災」について学んだ。

また、「高知大学海洋コア総合研究センター」に見学に行き、地震の仕組みについて学んだ。



児童の感想

この学習をして、地震のことがよく分かりました。ぼくも地震のことは知っていますが、今日、知らないことが分かったので良かったです。

例えば、避難タワーなどです。避難タワーは、15mという高さのものもあるらしいです。

スマイルあきと同じくらいの高さだというので、すごくおどろきました。

学校に、避難階段などのように地震が来た時逃げられる道を造ってくれると聞いたので、とてもうれしく思いました。

なぜかという、例えば夜に地震が起きて学校に逃げなければいけない時に、学校はしまっけていても、その階段を使えば、登れるからです。この学習をして、南海地震に備えておこうと思いました。

※子ども達はこうした授業や見学を通して、地震・津波・避難の仕方・防災等たくさんのことを学んだ。いざ防災学習を行ってみると、上級生なら知っているだろうと思うことであっても、意外と知らないことに気付かされた。

2 「避難訓練」

主体的な避難行動が取れる児童を育成するため『避難訓練』を学校行事に位置付け、授業中はもちろんのこと、休み時間や抜き打ちの訓練、さまざまな場面を想定し、工夫した訓練を計画的に実施した。



避難訓練は2ヶ月に1回のペースで行った。地震・津波を想定しての避難訓練は、

緊急地震速報を使って訓練をした。

実際に行ってみると、うまくいかない所や逆にスムーズにいきすぎる所があったり、また、意外な見落としがあったりして、その都度、修正をしながら次回の訓練に生かすようにした。



また、本校は安芸市でも高台に位置しているため、地域の避難場所に指定されている。避難訓練では、津波の危険性が確認されたという想定で、校舎3階に避難した。そして、避難訓練の後、全校放送を使って津波についての学習を行った。

(1) 地域自主防災組織と合同避難訓練

9月には、安芸市防災訓練に全校で参加した。

午前9時に巨大地震が発生したという想定で、3階への避難訓練を行った。

地域の方は、本校に避難して来たり、隣にある「すまいるあき」に避難をしたりした。訓練終了後、防災学習を学年別に行った。

1年生は、防災カルタを使った学習をした。



2～4年生は、「地域の歴史は防災につながる」という演題で、近未来建設 代表取締役 渡辺貴広 氏に地域の歴史と防災との関わりについてお話を聞いた。

5～6年生は、日本赤十字社高知県支部・安芸支部の支援を受けて、炊き出し訓練とバンダナを使った応急処置の方法を学んだ。

数年後には、地域の方を支援できる年齢になる高学年にとって、貴重な体験となった。



その後、保護者・地域の方と一っしょに、東日本大震災の被災地の現状について映像を交えた講演を聞き、午後には、体育館で引き渡し訓練を行って防災一色の1日を終えた。

この日の学習は、保護者・地域を巻き込んだ取組ができたことで、たいへん貴重な経験となった。

こうした地域を巻き込んだ訓練は、休みの日や市町村の防災訓練の日に設定すれば、体制が取りやすく効果的であった。

平成25年度も、自主防災組織と連携を取りながら、9月1日の訓練に参加する予定である。

(2) 5年生の総合的な学習の時間

全校が参加する避難訓練とは別に、総合的な学習の時間を使って、5年生が下校後の避難訓練を行った。

5年生は年間を通して総合的な学習の時間に防災学習を行っているので、学習の発展として、住んでいる地域に分かれて訓練を実施した。



IV 成果と今後の取組

1 アンケートの分析

1 回目の防災アンケート

防災教育を実施するに当たって、「児童の実態を知る」「学習後の変容を知る」ことを目的に防災アンケートを行った。

3・4年の低学年と5・6年の高学年対象に、低学年7項目、高学年8項目のアンケートを実施した。

6月のアンケートを集計して、いくつか

の課題に気が付いたが、特にその中でも、甚大な被害が予想されている安芸市で、「地震・津波について家庭の関心が薄い」ことは意外だった。

そこで、手立てとして防災カードを家庭で記入してもらうために配布した。

カードに連絡方法や待ち合わせ場所を記入することによって、親子で話し合う機会を持ってもらおうと考えたからである。

2 回目の防災アンケート

①「あなたは、南海地震について、話を聞いたり、見たりしたことがありますか。」の質問については、低学年・高学年とも「ある」と答えた割合が高くなった。

これは、防災学習を行った成果だと考えられる。

②「あなたは、地震が起きた時、自分の家のまわりでどんなことが起こるか知っていますか。」の質問についても、低学年・高学年とも「知っている」と答えた割合が高く、これも、学習してきた成果だと考えられる。

③「あなたは、地震が起きた時に、自分の命を守る方法を知っていますか。」の質問で、家や建物の中にいるとき避難方法を知っていると答えた割合は、低・高学年とも高くなっていますが、それに対し、「外にいるとき」に避難方法を知っていると答えた割合が、低・高学年とも低くなっている。

これは、防災学習を行い、地震・津波の恐ろしさを知ったことで、1人での避難に自信が無くなったことや、まだ、学校外での避難訓練を行っていないことが原因ではないかと考えられる。

このアンケート結果から、学校を離れての避難訓練が、平成25年度に取り組むべき課題となった。平成25年度の2月には全校を5つのグループに分け、地域の避難場所を確認する訓練を行う予定である。

⑤「あなたが、1人で登下校しているとき地震が起きたら、安全な場所に避難することができますか。」でも、「できる」と

答えた低学年の割合が低くなった。

これも、一人での避難に不安を持っている証拠だと考えられる。

- ⑥「あなたは、地震などで避難した後に、家族と集合する場所を決めていますか。」については、防災カードへの記入をしたことで、低・高学年ともに割合が高くなっている。

2 成果

実践的防災教育に取り組んできて、次のようなことが成果として挙げられる。

- ①本校の現状と抱える課題が確認できた。
- ②児童に、地震・津波への興味・関心を持たせることができた。
- ③児童に、地震・津波に関する一定の知識を、身に付けさせることができた。
- ④実践的な避難訓練を体験させることができた。
- ⑤防災教育を通して、保護者・地域・行政との関わりを持つことができた。

3 今後に向けて

- 防災についての本校の取組は、先進校と比べるとまだまだ不十分な点が多くある。今後は、年々防災対策を深化させ、発展した内容の防災教育へとしていきたい。
- 安芸市防災訓練への参加体制の見直しが必要である。今年度は児童を登校させての訓練参加であったが、次年度は地域に返しての訓練参加を計画したい。自主防災組織との話し合いを行い、実施に当たっては調整が必要である。
- 登下校時の避難訓練の実施ができていない。実施に際してはどのような方法で行うか検討が必要である。訓練時は、児童の安全面を考えると地域・保護者の支援が必要と考えられる。(交通事故の心配・訓練を知らない地域の方の混乱の心配など)
- 授業における防災教育のカリキュラムは、他地域のものを参考に作成した。実践してみて、今後は修正を入れながら、安芸市の実態に応じた計画や教材開発が必要である。
- 防災に関する学習を行うため、地域の方や専門家の支援が必要であると感じた。

謝金を含めた予算の確保と、講師の確保が課題である。

- 安芸市が進める防災計画の中で、学校がどう動いていくのか計画のすり合わせが必要である。今後機会を設け協議することが望まれる。

4 まとめ

今後も防災教育をすすめるに当たって次の7つのことが大切であるとする。

- ①まず、取り組もうとすることが大切(地震はいつ来るか分からない。まず取り組むこと)
- ②自校の実態を知る(学校・地域の実態に応じた防災教育を行うために必要)
- ③防災学習を実施する(子ども達は知ってるようで知らないことがあるので、授業として行う必要がある)
- ④さまざまな場面を想定した避難訓練を実施する
- ⑤地域の組織や行政との連携を図る(地域の実態を知るためにも必要)
- ⑥防災に関心の薄い家庭に呼びかける(学校・家庭が連携することが大切)
- ⑦長期的視野に立って取り組む(1年・2年で完結するものではないし、実施していく中で課題は次々と現れる。長期的に取り組んでいくことが重要)

本校も、少しずつ取組を深めているところで、まだまだ十分なものであるとは考えていない。

今後も取組を修正しながら、『自分の命は自分で守ることができる児童を一人でも多く育てていきたい』と考えている。



【 全家庭に配布したリーフレット 「守ろう命、津波から」 】